

## 防長の自然学散歩－17 「北長門のカルデラと火山露頭」



山口県の最北端、島根県境付近の地質図を見ると、断層線が楕円形につながった不思議な地形が見て取れます。(下図参照)楕円地形は長径 16 km・短径 8 km と広大で、内側は 3 千万年前に噴火した流紋岩～デイサイト質の火山岩で覆われていて、その時期の火山活動で出来た「田万川カルデラ」と言う火山地形です。

しかし、現存する日本の代表的なカルデラに比べて生成年代が非常に古いため、その後の新たな火山活動や削剥作用で凹地崖が風化崩落して、外見上は何の変哲も無い盆地状の景観になってしまいました。この様な陥没地形は、既存のカルデラと区別するため、最近ではコールドロンと呼ばれています。

この楕円断層帯の南西部に、伊良尾山というスコリア丘(※注)の火山がありますが、その麓で建設中の農道の掘削法面に、火山岩層の見事な断面が現れました。

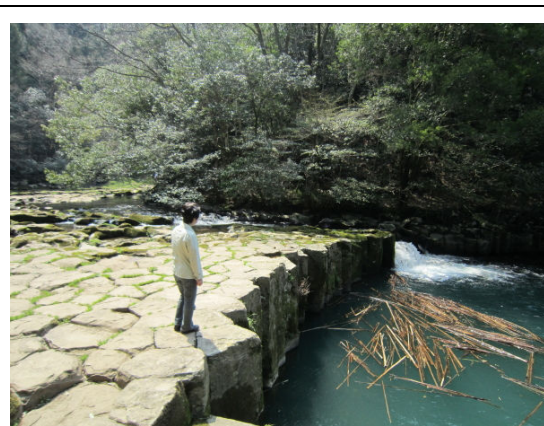
(※注：火山噴出物の一種で、多孔質のガラス状岩滓で構成された円錐状火山)山口県でこの様な学術的にも貴重な露頭が発見されたのはかつてない事なので、所管の山口県が山口大学の火山学者と協議して、その一部が地質標本として現状保存されています。但し、露頭を観察できるのはその内の一部で、大部分は法面保護のため擁壁と植栽で覆われており、残念ながら写真の様な全体像を見ることは出来ません。

この火山は、「自然学散歩－2」で出てきた阿武活火山群に属する火山で、カルデラよりずっと時代が新しく、40 万年前頃に噴火したものです。火口から噴出した溶岩の量は膨大で、しかも粘性が低かったため、古田万川に沿って 15 km も流れ下って、先端に溶岩湖ができました。

この様な日本では珍しい長大な溶岩流の痕跡は、途中にある「畳ヶ淵」や「龍鱗郷」という玄武岩の柱状節理がある溪谷で、つぶさに観察する事ができます。



田万川カルデラ周辺の地質図



畳ヶ淵の玄武岩柱状節理



伊良尾火山の噴出物露頭(写真は山口農林事務所提供)